

乳癌検診について

乳癌について

乳癌は乳腺に出来る悪性腫瘍で、日本でも年々増えてきています。2008年では年間に約4万人が罹り、女性の20人に1人の割合であると言われていています。また乳癌で亡くなる方はこの50年で7倍近く増えてきていて、2008年では1万1千人を超える方が亡くなりました。

乳癌は30歳から64歳の壮年女性の癌死亡原因の第一位となっています。20歳を過ぎれば注意が必要です。

乳癌の危険因子

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 年齢(40歳以上) | <input type="checkbox"/> 肥満の人(特に閉経後) |
| <input type="checkbox"/> 未婚の人 | <input type="checkbox"/> 血縁者に乳癌になった人がいる |
| <input type="checkbox"/> 高年初産の人(出産のしていない人も) | <input type="checkbox"/> 良性の乳腺疾患になったことがある |
| <input type="checkbox"/> 初潮が早く、閉経が遅い人 | <input type="checkbox"/> 乳癌になったことがある |

乳癌検診

■問診・視触診

現在の状態、過去の既往歴、家族歴などの問診や、視診や触診などの診察を行います。これだけでは早期発見が難しく、他の検査を併せて受けて頂く方が良いと考えられます。

■マンモグラフィー検診

放射線の検査で、手で触れないような微細な石灰化の段階での腫瘍を早期発見することが出来ます。しかし、若い女性は乳腺が多く、癌との区別がしにくいことがあります。はさんで検査するので、痛みを感じる場合があります、少ないですが被曝もあります。

■超音波検査(エコー)検診

超音波検査で乳腺に手で触れにくい腫瘍を発見出来ます。痛みを伴いませんが、微細な石灰化は発見しにくく、逆に良性の腫瘍、嚢胞など見つかることが多くなります。若い女性にむいていますが、マンモグラフィー検査の代わりにはなりませんので、必要に応じマンモグラフィー検査も併せてお受け下さい。

50歳以上	視触診+マンモグラフィー(毎年)+超音波(毎年)	近親者(親子・姉妹)に乳癌の方がいる場合など
40歳代	視触診+マンモグラフィー(1~2年に1回) もしくは 視触診+マンモグラフィー(1~2年に1回)+超音波(毎年)	視触診+マンモグラフィー(1~2年に1回)+超音波(毎年)
40歳未満	ご自身の判断でお受け下さい。 (例;視触診+超音波)	

乳癌検診価格

A コース ; 視触診+マンモグラフィー+超音波 (14,040円、税込み)

B コース ; 視触診+マンモグラフィー (8,640円、税込み)

C コース ; 視触診+超音波 (6,480円、税込み)